誰もが抱える悩みをパパッと解決!

福田貴一先生の福が来るアドバイス

読書感想文を書くことで得られる効果

早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田　貴一

小学校で出される夏休みの宿題の一つに、読書感想文があります。全国コンクールに応募するなど、力を注いでいる学校も多いようです。一方で、読書感想文を苦手とするお子様や、お子様にどのようなアドバイスをしたらよいか迷われている保護者様もいらっしゃることでしょう。今回は、「国語力」を高めていくための読書感想文の取り組み方について書かせていただきます。

「読書感想文」で身につく力

私は、「『国語力』を高める」という点で、読書感想文は非常に効果の高い学習方法だと考えています。「読解力」や「記述力」「表現力」を伸ばす、という点はもちろんですが、それよりも一つ前の段階である「読書に対して興味を持たせる」という点でも、よいきっかけになると思います。また、「国語力」の土台となる力の一つに「語彙力」があります。「語彙力」とは、「どれだけの言葉を知っているか」だけを指すのではありません。「どれだけの言葉を正しく使いこなせるか」です。言葉を正しく使うためには、ただ丸暗記するのではなく、「読書」によって生きた使い方に触れ、感想文を通して自分でも使ってみることがとても大切なのです。「宿題になっているから……」としぶしぶ取り組むのではなく、お子様が前向きな気持ちで取り組めるようにサポートしていただければと思います。

本の選び方

課題図書が指定されている場合を除いて、読書感想文を書くスタートは「本を選んで読む」ことになります。その場合、多くのご家庭が「夏休みの宿題として読書感想文が出されたので、書店に行ってお子様と一緒に読む本を探す」という流れになるのではないでしょうか。もちろんそれが悪いわけではありません。ただ、私はもう少し早い時期から読む本を探し始めてもよいと思います。はじめから「1冊」に決めるのではなく、何冊かの候補を読んで、そこからお子様が「一番書きたい」と思う本を選んで書くのが効果的だと思うからです。

どの本にするか迷う場合は、「塾のテキストやテストに載っていた作品」から選んでみてはいかがでしょうか。テキストなどを読んで、「続きを読んでみたい」と感じた経験のあるお子様は多いはずです。テキストに掲載されている作品は、その学齢のお子様よりも少し上の読者を意識して書かれたものが選定されていますので、語彙力の向上や、お子様の精神的な成長にもつながると思います。なによりも、本人が「読んでみたい」と思った作品であれば、集中して読んでくれるはずです。何冊かの候補から感想文を書く本を選ぶのであれば、6月末から7月初旬ごろから「本選び」と「読書」を始めてもよいでしょう。そうすれば、夏休みに入るときには何冊かの「感想文の候補となる本」を読み終わっていると思います。

お子様との2回の「会議」

さて、いよいよ感想文に着手、ということになるのですが、ここで2回ほどお子様との「会議」を持っていただきたいのです。

1回目の「会議」の議題は「どの本の感想文を書くか」です。何冊かの本を読んでいますから、お子様が「この本で書こうかな」と決めている場合と、「どれにしようか迷っている」という場合があるでしょう。いずれの場合も、保護者様との「会議」を通して本の内容を思い出していきます。そして「よし、これでいく」という1冊を決めていただきたいのです。感想文を書く本が決まったら、できればもう一度その本を読ませてみてください。既に「あらすじ」は頭に入っているので、今度は細部にも注意しながら読んでいきます。

再読が終わったら、2回目の「会議」です。今度の議題は「本の内容と感想について」。この時点で、お子様の頭のなかにはさまざまなイメージや感想が残っているはずです。しかし、それを独力で表現し、文章にまとめるのはなかなか難しいものです。頭のなかにぼんやりとある気持ちやイメージを表現するための言葉が見つからないこともあるでしょう。お父様やお母様と会話をすることで、頭のなかは少しずつ整理されていきます。うまく言葉で表現できない感情などは、語彙の選択肢などを示してアドバイスしてあげるとよいでしょう。まずは、「どんな場面が印象に残っている?」というような問い掛けから始めていただくのがよいと思います。たどし、目的はあくまでお子様の感想を引きだすことです。誘導的にならないよう、ご注意ください。

「読書ノート」をつくる

「読書ノート」というものをご存じでしょうか。読書を「記録」として残すためのノートです。市販のものもありますが、普通のノートを使用してつくることもできます。むしろその方が、自分で好きな要素を追加できる点でよいかもしれません。

①作品名／作者名
②読み始めた日／読み終わった日（もしくは途中で読むのをやめてしまった日）
③気に入った場面（物語文）／気に入った部分（説明文）
④一言感想

など、まずはこれらの必要最低限の項目でよいでしょう。1ページに1冊の本をまとめていきます。そして、このスタイルが軌道にのってきたら、次のような項目を入れるとより効果が高まると思います。

①この本を誰かにすすめするとしたら、誰にすすめたいか
②おすすめ度／なんて言ってすすめるか

「誰かにすすめる」という感覚で読んだ本を思い返すと、客観的な視点が養えます。相手の考えや受け取り方を意識することは、「国語力」をこえた精神的な成長にもつながるはずです。

以前、小学4年生の生徒に「読書ノート」をすすめたところ、小6で卒業するまで続けてくれました。そして、中学校に入学してからも電車通学中の読書が習慣になったそうです。中3のときに送ってくれた年賀状には、「まだ、読書ノートを続けています」と書かれていました。

ブログ 福田 貴一の 四つ葉cafe 公開中!

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。
早稲田アカデミー 教育事業本部 副本部長 福田 貴一

著書に『中学受験　身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー　検索
左のニ次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンの み対応